

第4回 第3次小牧市地域福祉計画及び地域福祉活動計画策定委員会 議事要旨

日 時	平成28年10月7日(金) 13時30分～15時
場 所	小牧市役所本庁舎 3階 301会議室
出席者	<p>【委員】(名簿順)</p> <p>柴田 謙治 金城学院大学人間科学部コミュニティ福祉学科教授 佐藤 政明 小牧市下区長会会長 大西 良雄 小牧市地区民生委員・児童委員連絡協議会篠岡地区会長 前田 光咲子 小牧市地区民生委員・児童委員連絡協議会北里地区副会長 成瀬 善男 藤栄シニアクラブ代表 松浦 詩子 小牧市ボランティア連絡会代表 長江 啓司 小牧市小中学校校長会 桃ヶ丘小学校校長 羽飼 憲次 小牧市障害者相談支援事業所ふれあい総合相談支援センター相談支援専門員 鳥居 由香里 こまき市民活動ネットワーク理事 大杉 富孝 一寸奉仕こまき代表 森 健一郎 小牧市社会福祉協議会 地域支え合い推進員 花村 琴美 公募市民 桑山 美知代 公募市民</p> <p>【欠席委員】</p> <p>鈴木 道子 北里地域包括支援センター ゆうあい管理者 松浦 早苗 保健連絡員代表 深堀 眞喜子 小牧ケアサービス まごころ会長</p> <p>【事務局】</p> <p>江口 幸全 健康福祉部 福祉総務課長 倉知 昌孝 健康福祉部 福祉総務課庶務係長 田中 秀治 社会福祉法人小牧市社会福祉協議会地域福祉課長</p>
傍聴者	1名
配付資料	<p>資料1 第3次計画素案</p> <p>資料2 第3次計画体系図案</p>

主な内容

<p>1. 開会</p> <p>(1) あいさつ(柴田会長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2月の委員会では、市民アンケートの結果の報告があり、これから重要になってくる視点が分かった。 ・ 6月には、2次計画の評価検証を行った。 ・ 地域福祉計画は、大きく変わるものではなく、重要な部分の骨格は決まってくる。そうした部分がまとめられた。今回は、事務局でまとめられた第3次地域福祉計画及び地域福祉活動計画素案に対する意見を出し合う。 ・ 議事進行にご協力をお願いしたい。 <p>2. 議題</p> <p>(1) 第3次小牧市地域福祉計画及び地域福祉活動計画素案について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事務局より、第3次小牧市地域福祉計画及び地域福祉活動計画素案について、資料1・2を用いて説明。

○ 資料 1 : P1 から P15

- ・ 質疑、主な意見は以下の通り。

鳥居委員)

- ・ 13 ページの避難行動要支援者台帳への登録者数が半数になっているが、今後、登録者数の増加に向けた取り組みや考えを教えてください。
- ・ 先日、台風が来た際、避難準備情報が発表されたが、どのような対応をしたか確認したい。大雨の中、どのように避難するのかという声も聞いた。
- ・ 人口について、全国的には減少という傾向が出ているが、小牧市はどうか。
- ・ 子どもの貧困対策として、子ども食堂ということでボランティアが活動している。
- ・ 滋賀県のある市では、給食費を無料化していると聞いた。子ども食堂などのボランティアも大切だが、行政として何をするか教えていただきたい。

事務局)

- ・ 台帳の登録者数が約半数であることは課題だと思っている。登録者数の増加に向けては、制度趣旨を説明のうえ、個別で働きかけをするとともに、地域に出向く中で、本来、登録が必要な方の増加を目指したい。
- ・ 先日の台風では、一部の地域に避難準備情報が発令された。そのため、台帳登録されている方に対して、市から個別で情報をお伝えするため電話連絡するとともに、担当地区に民生委員にも協力の要請したところである。
- ・ 大雨の中で、移動するのは難しく、自宅にいたほうが安全だという声もある。こうした避難支援体制について、充分とはいえず、今後の課題となる。
- ・ 人口については、全国平均に比べて緩やかではあるが、小牧市も例外なく、減少する見込みがある。また、子どもの数も減っていく見込みを持っている。
- ・ 貧困については、市内で子ども食堂を実施されている団体もいる。行政としても、子ども食堂、学習支援などの展開は必要だと感じている。
- ・ 給食費の問題については、実態を把握していない。

柴田会長)

- ・ 登録をするよう働きかけるのも大切だが、なぜ、登録されていないのか分析する中で、市や社協が働きかけをすることは重要であると考えます。
- ・ 子どもの貧困対策については、各自治体で調査を実施し、その状況を踏まえて対策を講じることになっている。名古屋市でも調査を実施すると言っている。こうした調査結果等を踏まえて動きを見せていくことになると思われる。

森委員)

- ・ 台帳への登録者の増加に向けては、地域の活動等を通じ、要支援者対策の必要性や、登録をすることによる利点を説明する中で、推進していく必要があると考える。

前田委員)

- ・ 台帳に登録されていない方の中で、登録されているといいなと思う方も多くいる。
- ・ 私の地区は、先般の台風の際に、避難準備情報が発令され、避難所（会館）も開設された。
- ・ 市からの連絡をもらい、情報伝達を実施した。
- ・ 地区に防災組織が弱体化してきており、区長や民生委員が協力して実施している状況である。
- ・ 情報伝達だけのための台帳では勿体ない。
- ・ 台帳を踏まえ、地域内でこういった動きを期待するか。行政として先導してほしい。

成瀬委員)

- ・ 自治会やシニアクラブなど、役を持った方だけ意識はある。中には拒否される方もいる。

大杉委員)

- ・ 総合防災訓練に始めて参加した。内容としては良いものだと感じた。
- ・ 消防部局から、防災訓練を小学校区単位で実施するようお達しが出ていると聞いている。
- ・ 光ヶ丘小学校において、訓練がされたが、地域協議会が設立されていない地区で小学校区を単位とすることには無理があるのではないかと考える。
- ・ 例えば、年に数箇所やる小学校を市が決め、計画的に実施すべきではないか。

柴田会長)

- ・ 台帳を作成し、配布されているが、具体的に何をするのかということについては、今後の課題ということだと思う。
- ・ 災害時における台帳ではあるが、平常時の見守りなどがないと、いざという時、何も出来ないことも多い。

○ 資料1 : P16 から P18 及び資料2

- ・ 質疑、主な意見は以下の通り。

大杉委員)

- ・ 大筋は理解できるが、“あなたが主役”という表現が、住民の中には受け入れにくい方もいるのではないかと考える。
- ・ また、集約というと、集められるという受け取り方をされる。結集のほうが、意味合いとしてはいいのではないか。
- ・ 「⑦サロンの相談機能を持たせ、地域内総合相談の拠点として位置づける。」という表現について、私個人としては、賛成であるが、サロンの担い手の中には負担感を抱かれる方もいる。
- ・ 全体的に、表現方法について、注意すべきであると感じた。

事務局)

- ・ 行政的な表現であり、申し訳ない。
- ・ 次回以降の原稿において、修正させていただく。

柴田会長)

- ・ サロンのボランティアが相談役を担ってほしいということだと、大杉委員の言われるとおり、負担感が増すと感じる方もいると思う。
- ・ 例えば、豊中社協のように専門職をうまく活用するといった形のまとめ方にすると担い手側にも安心感が生まれると思う。

鳥居委員)

- ・ ネットワーク化のために「ふくし座談会」を開催することは良いことだと思う。これまでは参加者が固定化されているため、今後は幅広い方に参加してもらえるようにすべきである。
- ・ また、活動の推進や発展には、コーディネーターの養成が必要だと思うが、こうした視点の記載が漏れている。
- ・ 見守りについては、訪問、宅配事業者の見守り協定の締結内容についても触れる必要があると思うがどうか。
- ・ 外国人の情報が出ている。これは小牧市の特性でもある。今後、そうした方も高齢化することになり、こうした視点についても記載すべきである。

大杉委員)

- ・ 本計画は、地域住民の指針となるような計画とすべきである。事業所とのことは入れないほうが良いと思う。

大西委員)

- ・ 本日、午前中に篠岡地区の民生委員の会合があった。篠岡包括支援センターの職員の出席のもと、

地道な地域のつながりや声かけ活動が必要だという話を聞いた。

- ・ 今後は、こうした活動を如何に進めていけるかが課題だと思う。
- ・ こうした活動を推進するのは、行政や社協がリーダーシップを発揮する必要がある。
- ・ 個人を複数人で支える、こうした活動や塊がどれだけできていくかが課題である。

森委員)

- ・ 専門職や事業所主体だと地域福祉の概念から外れてきてしまう可能性もある。
- ・ ただ、こうした専門職や事業所主体とうまく融合した重層的な体制や活動等の構築が必要になってくると考える。

柴田会長)

- ・ 活動やネットワーク化に向けては、「ふくし座談会」から始まるという視点のもと、2次計画の策定時から実施してきた。ただ、参加者が固定されており、その手法に工夫が必要であるとの意見は言われるとおりである。
- ・ 事業所との協定については、活動計画の中では書きにくいですが、地域福祉計画の中で触れることは可能であると思う。

事務局)

- ・ 外国人については、小牧市の特性ということもあり、課題であると考えており、現在、掲げた事業の中で、触れていく予定である。

松浦詩委員)

- ・ 地域ではさまざまな活動をしているが、縦のつながりだけであり、横のつながりはあまりない。
- ・ 計画が出来たのち、地域住民がどのように活用していくかも課題である。
- ・ 福祉体験学習を実施しているが、やりっぱなしになっている。
- ・ こうした横のつながりをどのように持っていくかが重要になると考える。

事務局)

- ・ 委員の言われるとおり、横のつながり、ネットワーク化が重要だと考えている。

3. 閉会

- ・ 次回は平成28年11月21日（月）午前 開催予定。